

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	神埼市立西郷小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと、組織的に「学力の向上」「豊かな心の育成」「保護者・地域とのスクラム」の各項目の取り組みについて、一定の成果を出すことができた。 教職員の業務改革や働き方改革推進がB評価だったが、残りはすべてA評価となり、年度当初に立てた計画通りほぼ遂行することが出来た。
2 学校教育目標	教育目標「一人一人が意識して学びの道にいそむ西郷っ子の育成」 校訓 ～学び愛し翔る西郷小～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> スキルタイムの取組を「陰山メソッド」として学校全体で取り組むことにより、基礎基本を確実に身に付けさせる。 新学習指導要領の理念を県研究指定「ESD」に取り組み、社会に開かれた教育課程を実践し地域や県内にも紹介していく。 年間生活目標である「自分から挨拶」「廊下歩行」「はきものそろえ」を徹底していくと共に、道徳の授業を充実させ心豊かな児童の育成を目指す。 学校だけでなく、学級により、HP等を使い、積極的に情報公開をしていくとともに、年間を通じ個別面談を重視し、保護者や地域との信頼関係を更に強固にする。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修等により取組の促進を図る。 ・業績評価表や学級経営案と関連付け、校長ヒヤリング等を通してPDCAを図る。							
	○ESDの推進	○校内研究の児童意識調査を実施し、課題設定、課題追究、意見交流に関する質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上	・課題設定と課題追究できる場の設定や工夫 ・他者と交流する場の工夫							
	○スキルタイムの充実	○百ます計算において、3分以内で達成できる児童の割合80%以上 2分以内で達成できる児童の割合70%以上	・学年や個人に応じた目標タイムの設定							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○挨拶励行、正しい言葉遣い、無言掃除ができていないと回答する保護者80%以上、教職員・児童85%以上にする。 ○年1回道徳の授業を保護者、地域等に公開する。 ○人権集会や平和集会を行う。	・毎月の全校朝会で話し、よくできている児童を紹介していくことで意識を高める。 ・ふれあい道徳を6月に設定し、礼儀、生命尊重、友情、規則の尊重等を主題にした授業を保護者地域に公開する。 ・読み聞かせや「ほかほかことば」等の活動を通して人権意識を高める。							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月「こころのアンケート」、年に2回いじめアンケート・QUTテストを実施しいじめ0を目指す。(100%実施、「学校は楽しい」を95%)	・実態把握を行うことで早期対応に努める。 ・アンケートをもとに児童の観察を行う。 ・家庭との連携を図る。 ・学校便りや学級便りを取り組みについて知らせていく。							
	○特別支援教育の体制作り	○特別支援教育のあり方や校内環境整備(ユニバーサルデザイン)について全職員で共通理解をする。 ○研修会を年間に3回以上実施する。(達成率100%)	・日付、日直等は後方黒板等を使う。 ・4月配慮を要する児童の共通理解、8月以降講師招聘の研修会・事例研修会を行う。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携ICTを活用した授業を行う。 ・朝食摂取率のアンケートから実態を把握し、朝食摂取の励行を図っていく。							
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・一斉下校・登校班集会を毎月実施し、交通安全についての注意喚起を行う。 ・見守り隊、派出所・警察、PTA、学校で意見交換を適宜行い、情報交換する。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間上限(月45時間)を遵守する。	・見える化(週案に作業可能時間明記/定時退勤の板書/データを基にした振り返り及び目標設定等)を行い、働き方改革への意識化を図る。							
	○業務改善に向けたPDCAの実施	○職員へのアンケート「職場環境チェック(7月・12月実施)」にて、肯定的な回答90%以上	・「西郷ボックス」利用やファイル管理の一元化による情報の効率的な共有 ・行事等終了後即時振り返りを行い、事後プランを立てることで、効率的に次年度に生かす。							

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 ・ESDに取り組み、持続可能な社会の担い手づくりにつながる教育課程を実践していく。	・校内研究の職員アンケートを実施し、探究的活動ができていないかやESDへの取り組みに関する質問に対して、肯定的な回答をする職員の割合80%以上	・生活科・総合的な学習の時間と他教科の横断的な単元構成の工夫、試行 ・地域にある「人・モノ・コト」を活用した単元構成の工夫・試行 ・「ESDカレンダー」の作成、ESDコーナーの設置と掲示内容の工夫 ・問題解決的な学習過程の充実							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---